

# 継往開来

<http://miyanou.myswan.ne.jp/>

## 宮農 グリーンツーリズムを今年も開催しました！

### 農業クラブ 代表 1年4組 洞口 美羽

11月14日に本校で行われたグリーンツーリズムに、農業クラブの一員として参加をしました。雨の降りしきる中、たくさんの方々が来てくれていました。私たちは生徒会役員とともに、参加者の方々と同行して体験をサポートしていきました。

開会式が行われ、バイオ部門での紙すき体験や、そば打ち体験をしました。参加者の人たちと試食をし、盛り上がりとても楽しそうに過ごしてくれました。昼食前には一緒に本校で生産したもち米を使い、もちつきをしました。ついたおもちを食べて、話にも華が咲き、地域の方々の考えを知ることができました。学ぶこともたくさんあり、勉強になりました。リンゴの収穫体験も行い、農業高校の農産物についても、よく知っていただく機会になりました。

この活動を通して、人とのコミュニケーションの大切さを改めて知ることができました。また、いろいろなことで楽しませる宮農のすごさにも驚きました。来年もまた参加をしたいです。

### 生徒会代表 1年1組 小川原 尚之

私は生徒会総務部としてグリーンツーリズムに参加しました。多くの方がこの行事に参加し様々な体験をしていただきました。私も常に同行し分かったことが二つあります。一つ目は宮農で様々な実習を行っているということです。普段農業・園芸科の実習しか知らない私にとってそば打ち体験などは他学科の実習内容を学ぶ良い機会となりました。二つ目は地域の方々が毎年この「宮農グリーンツーリズム」を楽しみに思っていてくれることです。どの体験でも笑顔で参加してくれて私も大変うれしく思いました。この行事に参加し私自身も普段交流のない方と接することができました。来年度もぜひ生徒会総務部としてお手伝いをしたいです。



### 全日本ホルスタイン共進会北海道大会に参加して

### 代表 農業園芸科 2年1組 岩佐 美穂

私は全共に行って、酪農の辛さ、魅力どちらも知ることができました。一晩中、牛が汚れないよう糞を桶に取り、精神的にも辛かったです。しかし、地味な作業や小さな事でも手をかければ牛は結果で返してくれました。きっと私たちの一步は本当に小さなものだと思いますが、全共の経験を励みにして牛歩の如く一步一步、牛と共に進んでいきたいと思っています。

### 代表 農業園芸科 2年2組 菅原 美涼

私は全共に行って様々なことを学びました。当初は酪農家の皆さんに迷惑をかけないか、邪魔にならないか心配でしたが、宮城県の方々に丁寧に教えていただき不安なく活動できました。また全国の多くの高校生と交流ができ、良い経験になりました。この経験を生かしこれからも日々の家畜管理をがんばっていききたいと思っています。

# 継往開来

<http://miyanou.myswan.ne.jp/>

**校内プロジェクト発表会より、全18チームから選出された、**

**県大会出場チームの紹介！！**

## 「学校代表で県プロジェクトへ出場し、入賞を目指します」

私達生活科プロジェクトチームでは、仙台の伝統野菜である仙台白菜の栽培に取り組んできました。8月には、韓国のジノ株式会社様より、寄付していただいた白菜専用のハウスが完成し、以前より安定して苗の本数を確保することができました。

9月には、岩沼市内や名取市美田園地区の圃場に、約10000本定植することができました。JA全農みやぎ、みやぎ生協、明成高校の皆さんや、韓国の大使の方々と一緒に協力して行うことができました。また、野野島では、来年、タネを取るための白菜として、2000本を定植しました。今年は、野野島での栽培が始まって、100年の節目の年になっていますので、協力できてとても良かったです。

11月には、仙台市内のホテルで日韓交流キムチフェスティバルを開催することができました。このような伝統野菜の生産に関する内容を発表し、是非とも最優秀賞を受賞して東北大会へ出場したいと思います。



## 県大会に向けて(チーム/SUN/PROJECT) 代表 3年5組 白石 怜

我々は今まで研究は「未来を照らしたい」という想いから様々なことを発想し、活動してきました。それは被災地を観光地化しようとするものです。

研究の内容はプロジェクトメンバー達が1年生の頃から積み上げてきた集大成の形でもあり、これから世界に広げ続けるまっさらなキャンパスでもあります。私達にとっては最後のプロジェクト発表となりますが、悔いが残らないように気を引き締めて挑戦したいと思います。

また、これまで協力してくれた様々な企業、地域住民の方々そして、先生方に感謝を伝えることが出来るように心を込めて発表したいです。県大会では我々の成長した姿をお見せできるように精進してまいります。



## プロジェクト発表 県大会に向けて 代表 農業機械科2年 丹野 恵太

私達科学部は11月11日に行われた校内大会にて「バラで被災地を変える」というテーマで発表し最優秀賞を頂くことができました。今回からは区分が異なり、今までの「環境」ではなくⅡ類で県大会に臨むことになります。今年は新たに1年生4人を迎えての新体制で刺梨の果実を有効利用する研究を進めています。

果実の利用法の一つとして、いま私達はジャムの加工を行っています。果実のビタミンC含有量はレモンの約50倍もあります。この果実と花が被災地の方々を元気にし、そして復興の一助になればと思います。

私達のバラの研究は始まったばかりで、データの量も前回までの桜より少なくなりますが、私達の研究を多くの人に知ってもらい、その先の東北、全国大会へとつなげられるようにしていきたいです。



## 水稻の直播き栽培技術の確立と新たな可能性にチャレンジ

～環境にやさしい直播き栽培から地域ブランド米の構築～

平成24年度より農業復興を目指して直播き栽培を試み、平成25年度より環境保全米の栽培を行い、先輩から受け付けた直播栽培技術を高めるために今年度は直播米のブランド化を目指して農家の松浦さんと協力して取り組んできました。つや姫は県の奨励米となり、県内でも栽培面積を増やしてきました。

今回、移植と直播栽培を比較調査し可能性について検討し、実施してきました。その成果を県大会で発表することで、私達の直播栽培技術を県内の多くの方々知ってもらえるチャンスと思って発表したいです。

